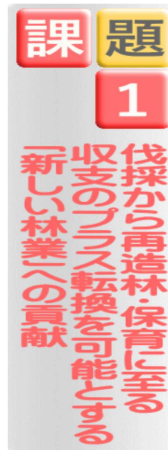




記者発表にあたり矢野局長から挨拶



4月18日、九州森林管理局では「国有林への多様な要請に応えるために」と題し、重点3課題と9つの取組から成る令和5年度の重点取組事項について記者発表を行いました。
九州森林管理局の令和5年度重点取組事項は次のとおりです。



取組① 造林事業における徹底した軽労化・省力化

○造林事業における担い手不足も踏まえ、植栽、下刈等の工程において軽労化・省力化に資する技術・施業方法を積極的に導入。

○特に、低密度植栽、長方形植え、中苗の活用拡大、下刈の省略筋刈について普及・定着を図る。

取組② 先端技術の積極的な導入による事業の省力化・高度化

○森林・林業・木材産業の分野においても、リモートセンシング等の新たな技術を積極的に活用する取組が進展。

○ドローンや地上レーザ等を積極的に導入し、森林資源情報や災害状況、地形情報等を把握し、事



説明や質問に回答する局幹部の皆さん

業の省力化・高度化を推進。

取組③ 林業経営体における生産性向上・経営安定化への支援

○森林整備と木材の安定供給を支える担い手の育成のため、素材生産の効率化や高付加価値化に取り組む林業経営体を支援

○樹木採取権の設定により長期安定的な事業機会を提供し、意欲と能力のある林業経営者等の担い手を育成。

取組④ 輸入材に頼らないサプライチェーンの構築への貢献

○国有林材の計画的・安定的な供給によって、より一層の国産材の安定供給・安定需要の確保に貢

献。

○木材需給に変化が生じた際には、地域の木材需給の安定に資するため、国有林材の供給調整を機動的に実施。

課題 2 公益重視の管理経営

取組⑤ 地域の安全・安心確保に向けた国土保全

○地域の安全・安心の確保に向けて、治山ダムの計画的な設置や保安林整備等の事前防災・減災対策



出席された記者の皆さん

策を実施。

○山地災害発生時には、ヘリコプターによる被災状況調査等を迅速に実施するとともに、早期の災害復旧に取り組む。

取組⑥ 保護林の設定による世界自然遺産等の生物多様性の保全

○森林生態系や希少な野生生物の保護を図るために、特に優れた自然環境を有する国有林を保護林に設定。

○九州にある2つの世界自然遺産地域はいずれも、その多くが国有林内に所在しており、引き続き適切な保護・管理を推進。

取組⑦ あらゆる手段を駆使したシカ捕獲対策の強化

○ニホンジカの生息域の拡大等による、林業経営や森林の公益的機能の発揮に影響。

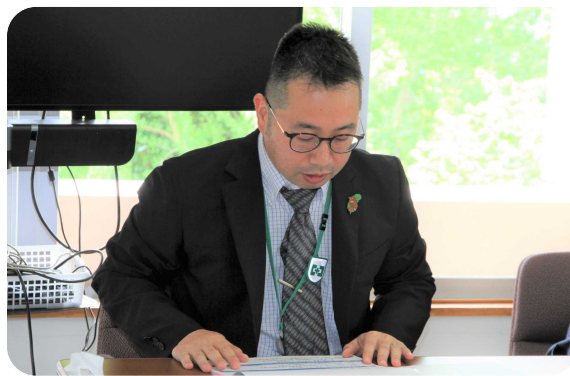
○地元市町村・猟友会等とのシカ被害対策協定の締結や、新たなシカ捕獲技術の導入等により、シカ捕獲対策を強化。

課題 3 組織・人材・フィルドを活用した地域の課題解決への貢献

取組⑧ 市町村等の森林・林業行政への技術支援

○九州森林管理局で実施する研修において、市町村職員の参加受入れ、フォレストスター等活動推進会議及び現地検討会の開催。

○技術支援情報サイトの充実を図るなど市町村等の森林・林業行政に対する技術的な支援を実施。



説明する相村課長

取組⑨ 観光資源としての森林空間・森林景観の活用促進

○優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森に設定し、保健休養の場として提供。

○このうち、特に景観等の優れた箇所については、「日本美しの森お薦め国有林」として重点的

な環境整備等を実施。

その後の質疑応答では、ドローン活用チーム（仮称）の取組内容、ドローンによる苗木運搬の取組内容、中苗の植栽状況、シカ被害状況やシカ捕獲対策の取組状況、国有林の立木販売結果の公表内容について質問があり、局長及び担当部長より回答し、取組に対する理解を深めていただきました。

※令和5年度重点取組事項は、左記のURL、QRコードもしくは九州森林管理局HPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になれます。

（担当＝企画調整課）



https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/saisei_plan/jyuten.html

令和4年度
治山・林道工事コンクール
表彰式を開催
優良工事施工業者・現場代理人・監督職員を表彰

4月12日に局大会議室において、令和4年度治山・林道工事コンクールの表彰式を開催しました。



受賞された皆さん

本コンクールは令和3年度に施工した工事で、事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト削減・技術提案・環境配慮・施工管理）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事部門5社、林道工事部門2社に対して九州森林管理局長賞の表彰を行いました。

また、九州森林管理局長表彰に併せて、当局から林野庁へ推薦した3社の工事が、農林水産大臣賞（治山工事1社）、林野庁長官賞（治山工事1社・林道工事1社）を受賞されたことから記念品の授与を行い、当該工事の現場代理人並びに監督職員に対し、九州森林管理局長賞の表彰を行いました。

矢野彰宏九州森林管理局長から「この度、栄えある表彰を受けられた皆様方におかれましては、各社が長年に渡って培ってこられた高度な施工技術、適正な施工管理による優れた工事の実績が認められたものであ

り、心よりお慶びを申し上げますとともに、担当技術者の方々には、作業環境の厳しい国有林内の工事でご苦労された点もあつたかと



表彰状授与式の様子

思うが、徹底した安全管理、施工管理により工事を完了されたことに改めて敬意を表す。また、農林水産大臣賞は令和2年度に続く受賞であり、当局管内における工事レベルの高さを表すものである。今後とも、なお一層の御研鑽に努められ、より良い工事の施工に御尽力を頂きますよう、お願い申し上げます。

受賞者は次のとおりです。

◆農林水産大臣賞

○芦北地区治山工事（合戦場外1）
《九州森林管理局発注》

大政建設株式会社
代表取締役 森山 澄江

◆林野庁長官賞

○太忠岳77治山工事（関連災）

《屋久島森林管理署発注》

小牧建設株式会社

代表取締役 小牧 隆

○福連木321-1林道及び福連

木321-2林道新設工事

《熊本森林管理署発注》

九州緑化施設株式会社

代表取締役 中村 実敏

◆九州森林管理局長賞

【工事の部】

○杉谷温泉岳治山工事

《長崎森林管理署発注》

株式会社小場組

代表取締役 小場 政昭

○七ツ山治山工事（関連災）

《熊本南部森林管理署発注》

有限会社ふじもと

代表取締役 藤本 伸介

○板谷治山工事

《宮崎南部森林管理署発注》

永野建設株式会社

代表取締役 永野 真哉

○荒磯治山工事（関連災）

《鹿児島森林管理署発注》

株式会社森山肇組

代表取締役 八木 政文

○朝倉地区治山工事（杷木志波7

(奥ノ丸) 外1)

《九州森林管理局発注》

山一建設工業株式会社

代表取締役 後藤 慎太郎

○鱧頭75林道新設工事

《宮崎森林管理署発注》

春山建設工業株式会社

代表取締役 春山 義正

○荒西林道改良工事

《大隅森林管理署発注》

有限会社栄倉組

代表取締役 栄倉 忍

【技術者の部】

○芦北地区治山工事(合戦場外1)

監理技術者 谷 一真

(大政建設株式会社)

監督職員 中村 健一

(九州森林管理局治山課)

○太忠岳77治山工事(関連災)

監理技術者 大脇 康博

(小牧建設株式会社)

監督職員 江口 晃

(屋久島森林管理署・現鹿児島署)

○福連木321-1林道及び福連

木321-2林道新設工事

監理技術者 内田 伸児

(九州緑化施設株式会社)

監督職員 後藤 誠也

(熊本森林管理署)

(担当〓治山課)



4月6日、令和5年度の菊池渓谷の山開きが、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会の主催により、当署など関係機関から約30名が参加して開催されました。

まず、神職による神事及び関係機関による玉串奉奠が行われ、今シーズンの菊池渓谷内の安全が祈願された後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「最近の傾向として、菊池渓谷の自然豊かな魅力を感じた多くの方が菊池渓谷山開き前から来訪されている。今後とも関係者の皆さんと連携し



神職による神事

ながら魅力ある快適な環境となるよう整備を進めたい」と挨拶され、来賓として当署の井上智晴署長が「林野庁においては森林サービス産業の推進に取り組んでおり、当署としても、くまもと自然休養林菊池水源地区が更に発展するように全面的にバックアップして参りたい」と挨拶しました。



挨拶する井上署長

最後に、本日は生憎の雨のためビジターセンター内でしたが、関係機関の代表者と山開き式に元気な歌で花を添えてもらった地元の保育園の園児とともにテープカットを行い山開き式は終了しました。当署としては、コロナ禍も落ち着きを見せており、多くの国民の



地元の保育園児たち

皆様に菊池渓谷に足を運んでもらい、美しい森林の景観や美味しい空気を吸って心も体もリフレッシュして頂きたいと考えています。



4月13日、霧島市霧島田口高千穂河原で、霧島連山自然保護協議会による「霧島連山夏山開き」が行われ、関係者約40名が出席する中、今シーズンにおける夏山登山の安全を祈願しました。

古宮址(こみやうし)において、神事と関係者による玉串奉奠が行わ



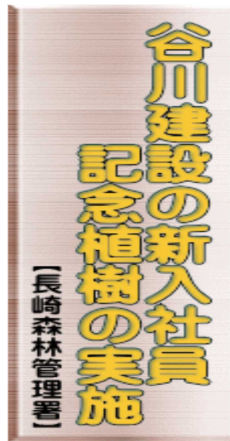
神事の様子

れた後、霧島連山自然保護協議会会長中重真一霧島市長は、「霧島連山は、20を越える火山が折り重なり、複数のカルデラ盆地が隣接しています。また、火山活動にあわせて持続可能な地域づくりを目標に、自然体験を取り入れたジオツーリズム、地域ぐるみの活動の推進が期待できるとして、日本ジオパークに認定されています。登山者の安全を願うとともに、火山活動など関係機関とも連携を図り、多様性に対する情報を発信しながら、四季折々の自然が楽しめる連山の活用をお願いします」と挨拶されました。

神事が行われた後、鹿児島森林管理署職員7名が、登山道周辺のゴミ拾いなど、登山者への啓発活動を行いました。



参列者の皆さんが登山者の安全を祈願



4月20日、雲仙市の国有林内において(株)谷川建設新入社員記念植樹が開催されました。

この催しは、新人研修の一環として毎年行われていますが、コロナ禍の影響もあり4年ぶりの開催

となりました。

谷川建設は、「やすらぎと癒やしに住まい」を提供する企業として、森林造成・育成に携わり、社会貢献することは重要な取組だと考えており、新入社員に対して、その重要性を認識してもらう目的で、植樹の実験を行っています。



悪戦苦闘しながら植樹する新入社員の皆さん



全員で記念写真

当日は快晴の中、黒木興太郎署長の挨拶の後、中島龍太森林技術指導官と秋吉新二総括森林整備官の安全指導及び植付実演指導を受け、令和2年度から今年度に採用された新入社員20名が植樹を行いました。

慣れない作業に悪戦苦闘しながら、ヒノキ、ヤマザクラの苗木約200本の植樹に取り組み、最後にそれぞれの将来の目標などを記入したプレートをヤマザクラの苗木の横に立てて、苗木とともに大きく成長することを願い、無事に記念植樹を終了しました。



新規採用者と局幹部の皆さん



4月17日から18日の2日間において、令和5年度一般職員採用者18名を対象に新規採用研修を実施しました。

矢野彰宏局長の訓示と講話をはじめ、梅木洋一次長、島田喜代司総務企画部長からの講話、相村英範企画調整課長からは、「九州局の取組事項」について分かりやすい講義をしていただいた後、岩下隆徳総務課長他業務担当者から「職員の健康安全」「公務員倫理」「人事評価・ハラスメント防止」「各課の概要」等についての講義を受けました。

引き続き4月19日から21日の3日間において、基礎全般研修（前期）を実施し、総務課各係の業務、経理課各係の業務、企画調整課から「情報セキュリティ」「各システムの基本操作等」、計画課から「森林調査簿等の見方」の講義を受けました。

5日間の短い研修でしたが、各講義等に対して研修生全員が真剣に取り組み、質問も積極的に行うなど活気のある研修となり、受講している研修生の姿を見てみると、今後の国有林野事業の明るい未来が見えたように感じたと感じました。

最後に局長はじめ、幹部の皆様、今回の研修にご協力いただきました講師の皆様にお礼と感謝を申し上げます。



4月24日、島原市の三会温泉嶽国有林において、株式会社長崎林業主催の採材研修が実施されました。



意見交換しながら採材を検討

この研修は、採材技術の向上はもとより、生産数量の確保と生産性の向上を図るという目的で、森林整備事業保育間伐【活用型】請負箇所で開催されました。

当日は、システム販売先の伊万里木材市場のほか、当署は関係職員とOJTとして若手職員等が参

加しました。

現地は、スギ・ヒノキ林分（47（65年生）で曲がり材も多く、採材の仕方によっては、請負金などにも大きく影響することから、造材は神経を使う作業です。参加者は、熱心に質問や考え方の確認を行い、現物の丸太を見ながら欠点を確認のうえ選別していききました。

実際に採材するプロセッサのオペレーターは重機に乗ったまま、何千本もの伐倒木を造材しますので、経験と判断力が重要となります。そのオペレーター7名が参加した貴重な研修になったことや、生産者、買受者、発注者の3者で意見交換ができ、非常に有意義な研修となりました。



研修に参加した皆さん

緑の募金贈呈式

技術普及課

4月12日に熊本市中央区のKKRホテル熊本で一般社団法人九州林業土木協会山本求道会長より、4月17日に九州森林管理局局長室で、九州国有林採石協会中田博基会長より、それぞれ緑の募金が手渡されました。

九州森林管理局では、今年も緑の募金全国一斉強調月間である「みどりの月間」（4月15日～5月14日）に募金活動を展開していきます。



山本会長から募金の贈呈



中田会長から募金の贈呈

集まりました募金は、国土緑化推進機構と熊本市地域みどり推進協議会を通じて、身近な地域の森林（もり）づくりや地球温暖化の防止など、各種活動の活性化に活かされています。



乙益正隆氏に 林野庁長官感謝状を贈呈

熊本南部森林管理署

人吉市在住の乙益正隆氏は、平成3年に人吉市の小学校校長を最

後に退職、その後、国や県市町村の植物調査・保護活動を中心とした各種委員会などに参加、瑞宝双光章や環境大臣賞をはじめ、様々な表彰を受けている植物や方言の研究者です。

乙益氏は、人吉球磨地域を中心に各地を巡り、主にシダ植物を研究し十数種の新種や新雑種を発見、「オトマスイヌワラビ」など名前の付いたものもあります。

植物研究を進める中で、植物の活用方や呼び名の違いなどその地域性にまで関心を持ち、研究は方言や民俗学におよび、学術書から草花遊びの一般書まで幅広く出版しています。



講話する乙益氏

赤星署長からご家族へ感謝状を贈呈



熊本南部森林管理署では、平成17年度から「森のセミナー」と「自然観察会」の講師を勤め、「森のセミナー」では、植物に関する様々な講話が行われ、例えば「民族と植物」のテーマでは、「人々が身近な植物をどのように活用していたか」、「植物の意外な効能や食したときの害」など、ユーモアを交えた話に参加者は興味津々に聞き入っていました。

また、「皆で育てることが種の保存につながる」との思いから、希少なシダ植物を株分けし希望者に配布することもありました。

「自然観察会」では、人吉球磨地域の国有林に向き、直に植物

に触れながら「その地域における植物の特徴や生息地」、「どの様な環境で育つのか」などを詳しく解説、参加者からは、森林に関心を深める良い機会となったと大変好評でした。

今回、これまでの乙益氏の功績を称え、国民の森林づくり推進功労者に選出、3月16日に熊本南部森林管理署において、乙益氏の代理として赤星良治署長からご家族に林野庁長官感謝状を贈呈しました。



令和5年4月1日付の人事異動により新しいポストに就かれた、業務管理官、地域木材情報分析官、2名の部長、6名の課長、6名の森林管理署長をご紹介します。

業務管理官

年齢 55歳

出身地 福島県

抱負 民国連携は、国有林野事業が一般会計化して以降、県や地域の



うめき よういち
梅木 洋一

自治体に対して認めてもらうという趣旨から始まったものです。最初は、お互いの挨拶程度から始まった取り組みですが、今では施業の低コスト化技術の普及など「新しい林業」を進めるために欠かせない原動力の一つとなっています。

何事も「新しい」というと身構えてしまいますが、低コスト化を例にとれば、林業の採算性が取れていた昭和40年代から各地で始められていた動きであり、丸きり目新しいものではありません。諸先輩方がぶつかってきたであろう壁を、現代の知見や技術をとりまとめた総合力で乗り越えていく作業と言えます。

日本の森林・林業が、よりよい方向に変化させることができるよう取り組んで参りますので、よろしくご協力をお願いします。

地域木材情報分析官

年齢 57歳



ながの とおる
永野 徹

出身地 鹿児島県
抱負 九州森林管理局は、初めての勤務となります。前職は本庁で林業従事者の労働安全の担当をしておりました。

新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきて、人の動きも活発化していますが、林業の現場では、原木の市況が一時期のウッドショックでの価格高騰以降、現在の状況はウッドショック以前よりも高いとはいえず、落傾向にあります。持続可能な林業経営には、素材生産の生産性の向上だけでなく、雇用の維持や原木価格の安定などが重要と考えます。地域木材情報分析官として、生産性向上や九州管内の原木市場の需給情報の収集・分析等を通じ、これらの課題への対応に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務企画部長

年齢 58歳



しまだ きよし
島田 喜代司

出身地 京都府
抱負 九州局での勤務は初めてですが、とても環境の良い中で仕事をさせていただけのことに、大きな喜びを感じているところです。また、プライベートでもこれまで遠くまで諦めていた撮影ポイントが近くなり、行けるようになったことも嬉しい限りです。

総務企画部は、局署の業務を円滑に進めるために汗をかく部署であることから、日々努力をしていきたいと思っております。

このためは、山を知り、人を知ることが重要ですので、現場に足を運び早く山と職員の皆様を覚え、安全で風通しの良い職場づくりに努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

計画保全部長

年齢 54歳

出身地 熊本県



いけだ ひであき
池田 秀明

抱負 林野庁入庁以来、初めての九州局勤務となります。本庁や北海道、東北、四国局等の勤務で得た経験を活かしながら、職員の方々や関係の皆様の協力を頂きながら、将来を見据えた森林資源の管理、頻発する自然災害からの復旧、安全・安心の確保、急増するシカ被害への対応、世界自然遺産の適切な管理などの様々な課題に取り組みで参ります。九州の国有林が地域に根ざした存在として、地域の皆さんから信頼いただける存在であるよう、取り組んで行きたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。

企画調整課長

年齢 45歳
出身地 広島県
抱負 昨年度は、企画調整課課長補佐として1年間大変お世話になりました。

企画調整課は、予算の執行管理や



あいむら ひでのり
相村 英範

民国連携、監査、情報管理等と皆様に関わる業務を多岐にわたり担っているため、課内職員の皆様と協力しながら各種業務をサポートしてまいります。

また、風通しの良い職場環境を保ち、皆様と共に健康、安全に留意しつつ、業務に励みたいと思ひます。今年度も引き続きよろしくお願ひいたします。

経理課長



しのむら かずき
篠村 和希

年齢 57歳
出身地 宮崎県
抱負 前職では、1年間契約統計

事務等に携わっておりましたが、一般、引き続き経理課で業務全般に携わることになり、改めて身の引き締まる思いです。

経理事務は、目立つ業務ではありませんが、正確さと厳格さを求められる重要な役割を担っており、業務運営においては決して欠くことのない業務です。

課内一丸となつて、皆様の各種業務が円滑に進むよう下支えして参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

計画課長



うおずみ ゆうや
魚住 悠哉

年齢 44歳
出身地 静岡県
抱負 これまで国有林は、四国局と関東局での勤務経験はありますが、九州局での勤務と生活は初めてとなります。

九州・沖縄の各地域にそれぞれ特

色豊かな国有林が存在しておりますので、その多面的機能を最大限發揮し、地域に貢献できるように、局署等や関係機関と連携し、また、できるだけ現場に足を運びながら、適切な森林計画の編成とともに、保護林・世界自然遺産・ユネスコエコパーク等の保全と利用の促進にも取り組んで参りますので、よろしくお願ひいたします。

保全課長



まつなが しんや
松永 眞弥

年齢 57歳
出身地 熊本県
抱負 国民共通の財産である国有林を適切に保全管理することが、保全課には求められますが、まずは、「慎重かつ丁寧」をもつとくに業務を進めていく考えです。

一方で、自然災害の多発化の影響や生物多様性など、地域の皆様の森

林・林業への感心が益々高くなっている中において、鳥獣害対策、境界管理、国有林野の利活用などの地域の要請には、スピード感をもって応えていく必要があります。これからも、情報収集・共有に努め、局署等と連携しながら着実に進め、諸先輩方がこれまで築き上げられた「緑の国有林」を適切に保全管理していく所存であり、引き続き、職員の健康と安全確保に向け風通しの良い明るい職場づくりに取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

森林整備課長



ひろた ただよし
廣田 忠善

年齢 58歳
出身地 熊本県（八代市坂本村）
抱負 令和4年度から取組を進めている「新しい林業の実現に向けた実行プラン」におけるコンテナ苗、優良品種（特定母樹）の導

入拡大、下刈（筋刈）の推進、低密度植栽など、トータルコストの低減と各種事業を円滑に遂行するための林道整備を確実に実施して行くため、各署等との連携、情報の共有を図りながら、安全で効率的な業務運営に取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

資源活用課長



くわはら ひでたか
桑原 英隆

年齢 58歳
出身地 熊本県
抱負 国有林材の計画的・安定的な供給によって、より一層の国産材の安定供給・安定需要の確保に貢献し、「新しい林業」実行プランの推進に取り組むとともに、職員の安全と林業経営体等の災害件数の減少に向け、局署等の皆様と連携を密にし、対応に取り組んで参りますので、よろしく願います。

福岡森林管理署長



いのうえ やすゆき
井上 康之

年齢 58歳
出身地 山口県
抱負 大学時代の4年間を九州で過ごして以来、36年ぶりの九州入りとなります。これまでの署長経験を活かしつつ、職場全体が一丸となって楽しく業務ができるよう盛り上げて参ります。また、ワーク・ライフ・バランスを心掛け、職員の方々のOFFの時間を大切にします。九州局での勤務は初めてですが、皆様方のご教示をいただきながら、署長として最後の任務を誠心誠意果たして参りたいと思っております。どうぞよろしく願います。

佐賀森林管理署長



いじま あきひさ
猪島 明久

年齢 58歳
出身地 熊本県
抱負 佐賀森林管理署での勤務は初めてとなります。まずは、職員の皆さんとともに、健康と安全を第一に、明るく風通しの良い職場づくりに取り組んで参ります。管内には国指定の特別名勝の「虹の松原」を有しており、当署の実施するマツクイムシの被害防除やボランティアによる松葉かき等によりその価値が保たれており、地域の関心も高いことから、保全・管理に当たっては地元自治体等関係者との連携を図りながら対応していきたいと考えています。国有林が地域に評価されるよう職員の皆さんと一体となって取り組んで参りますので、よろしく願います。

長崎森林管理署長



くろき こうたろう
黒木 興太郎

年齢 58歳
出身地 熊本県
抱負 職員の安全と健康を第一に、明るく風通しのよい職場作り
に取り組んで参ります。

また、長崎県は、雲仙天草国立公園、西海国立公園、壱岐対馬国立公園の指定があり、管内には希少な野生動植物の生息生育環境を提供するなど、豊かな自然が数多く残されています。

一方、雲仙普賢岳や眉山のように、地域の皆様方の安心安全が求められている現場も抱えています。このことから、業務運営にあたっては、国民の視点に立ち、地元の自治体や関係機関等との連携を密にして、地域の課題解決に向けて取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

熊本南部森林管理署長



たかぎ しゅういち
高木 周一

年齢 58歳
出身地 熊本県
抱負 2年ぶりに熊本南部署で勤務することになりました。

先ずは、令和2年7月豪雨により甚大な被害が発生したことから、復旧・復興に市町村と連携を密にしながら取り組んで参ります。

また、管内は、充実した森林資源を背景に、林業・木材産業が盛んな地域です。

現在実施している五木地域共同施業団地取組、低コスト造林の実証、人材や林業経営体等の育成など、森林・林業再生に向けて、民有林と連携を密に進め、国有林が地域に貢献できるように職員とともに努めていきますので、引き続きよろしくお願いたします。

鹿児島森林管理署長



かつき ひでのぶ
香月 英伸

年齢 55歳
出身地 福岡県
抱負 九州の出身で、入庁後33年目にして初めての九州勤務の機会をいただき、感謝の気持ちとともに感慨深いものがあります。

管内の国有林は、半分がスギ・ヒノキからなる人工林であり、「新しい林業」の実現に向けた取組を展開するとともに、北は霧島

連山から南は世界自然遺産地域の奄美大島・徳之島といった知名度の高い自然豊かな地域が多くあり、署員の皆様とともに、地域や関係機関との連携を図りながら公益重視の管理経営を一層推進して参ります。

どうぞよろしくお願いたします。

屋久島森林管理署長



もりもと しげる
森本 茂

年齢 55歳
出身地 福岡県
抱負 28年ぶりの九州局勤務、そして同じく28年ぶりの屋久島での勤務となります。安全や健康を第一に風通しの良い明るい職場づくりに努めて参ります。

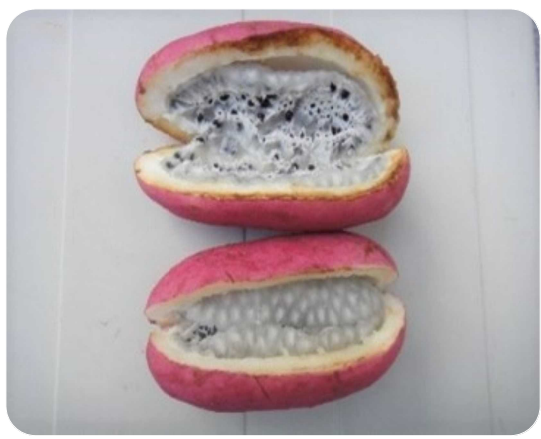
また、各種事業の確実な実施に向けては、職員をはじめ関係行政機関や地域の関連団体等との連携、協力は必要不可欠です。これまでの諸先輩方の取組をもとに、さらに国有林が離島振興に貢献できるように取り組むことが重要と考えています。

特に、今年は屋久島が世界自然遺産に登録されてから30周年を迎える節目の年となります。引き続き、適切な森づくりに努めるとともに、自然環境の保全や地域振興への寄与等に取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。

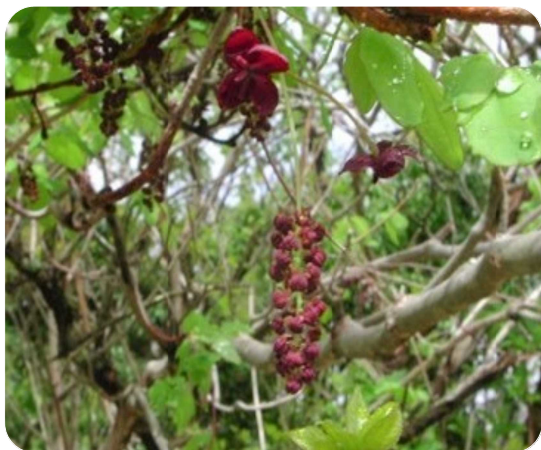


2=2
【アケビ類】
一番おいしいのは？
ミツバアケビ

小さい渓谷沿いの藪には、小さい果実をいっばいつけたミツバアケビを観察することができます。アケビの果実は子供への土産に持ち帰ったのですが、ミツバアケビの果実を持って帰った記憶はありません。



三出葉は、葉先に大きな波形の鋸歯がありますが、このような鋸歯を歯牙といつて区別します。花弁状に見える3枚の花被は、萼の変化したもので花弁ではありません。アケビ科の特徴でもあります。同じ株に花が咲き、両性



花でなく雄花・雌花が別々に咲きます。このような状態を雌雄異花といいます。雌花には柱状になった柱頭に粘性のある雌しべを観察できます。柱状になった雌しべは珍しいです。普通はこのうち3個くらいが果実になります。ゴヨウアケビは、アケビとミツバアケビの雑種とされています。名前は、アケビの小葉が5枚に對し、小葉が3枚であることから付いた名前です。



森林インストラクター
安楽行雄



この地に赴任して早いもので1年が過ぎた。最初の頃は当地が観光地ということもあり、いろんなところを徘徊した。半年過ぎると何もすることがない土日が来るのが怖くなってくる。▼昨年の秋、沖縄県で一番高い山である於茂登(おもと)岳(標高526m)に一人で登山をした。登り始めると歩道はある程度整備してあるものの、亜熱帯植物の植生が歩道に覆い被さり歩道が見えないところもある。ハブに会わないことを祈るだけだ。この日は曇天で湿度が高く、汗まみれになりながら頂上目指す孤独な戦いとなった。頂上に着くと一面に覆われたリュウキュウチクが背丈以上に伸びていて何も見えない。周りを見わたせば濃霧で360度真っ白である。ただ、空港を離発着する飛行機の音だけが空しく聞こえてきた。▼もうすぐ2回目の長い夏がやってくる。昨年度は熱中症にも罹らずなんとか乗り越えられた。今の職場の過酷な調査に耐えるためにも事前に体力づくりを行うこととしたい。

(た)